

第1学年2組 道徳学習指導案

平成28年11月22日(火) 第5校時

児童数 18名(男子9名女子9名)

指導者 久米秀鳳

場所 1年2組 教室

- 1 主題名 しんせつになったおおかみ[B-(6) 親切・思いやり]
- 2 資料名 「はしのうえのおおかみ」(出典:学習研究社「みんなの道徳1年」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目 B-(6)「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」をねらいとしている。

よりよい人間関係を築くためには、相手に対して思いやりの心をもって接することが大切である。相手の立場に立った励ましや援助が実践できる児童を育成していきたい。自分の身近な人に温かい心で接し、お互いに思いやりの心をもって生活しようという態度を育てたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は入学以来、係や当番の仕事等を通して友達と仲良く協力し合うように指導してきた。座席や並び順が近い友達と学習や活動を行ってきたことで、友達と一緒に活動することのよさを実感できるようになってきた。お互いに声を掛け合ったり、遊んだりする場面が増えてきている。

本校では、「ありがとう日記」に取り組んでいる。「ありがとう日記」とは、一日を振り返り、言ったり言われたりした前向きな「ありがとう」から自己有用感を育むことをねらいとしている。本学級の児童も意欲的に取り組んでおり、友達のことを考えて発言したり、行動したりする児童が増えてきている。しかし、時として自分勝手な行動をしてしまい、友達に対して厳しい声かけをすることのある児童もいる。

児童の「親切・思いやり」の実態について知るために、アンケートを行った。アンケートの結果は以下の通りである。(9月1日実施)

- | | | | |
|---|--------------------------|------------------------------|--------|
| 1 | 友達に対してやさしくしたことがありますか。 | はい…15名 | いいえ…3名 |
| 2 | 友達にやさしくされたことがありますか。 | はい…16名 | いいえ…2名 |
| 3 | 年が下の子に対してやさしくすることができますか。 | はい…15名 | いいえ…3名 |
| 4 | 優しい人とはどんな人ですか。 | 遊んでくれる人・誰かに「ありがとう」といわれている人 等 | |

本学級の児童は優しくしたり、されたりした経験が多いということが明らかになった。一方で、児童のなかには、「優しい人＝何かを一緒にしてくれる人」というイメージをもっている児童も数名いることが分かった。「優しい人とはどんな人ですか」という質問に対し、「一緒に遊んでくれる人」や「一緒にいてくれる人」など、「優しさ」を「優しい言葉や行動をしてくれる人」という認識だけでなく、「同じ空間や場所を共有してくれる人」という別の視点をもっていることが明らかになった。

(3) 資料について

一本橋の上で、主人公のおおかみが動物たちを相手におもしろがって意地悪をするところから始まっている。ところが、ある日おおかみはくまと出会う。今度は自分が意地悪をされる番だと思って橋を戻ろうとするが、くまは自分を抱き上げて先へ渡してくれた。弱い動物たちに意地悪をしていたおおかみは、くまに優しくしてもらうことによって、思いやりある温かい態度の素晴らしさを学び、成長していく様子をとらえさせたい。また、思いやりある態度は、自分にも快いこと気づかせたい。

4 研究主題との関わり

本校は、研究主題を「まごころをつくしあい、みんな仲よく、たゆまず学び続ける児童の育成」として研究を進めている。低学年ブロックでは、「相手を思い、やさしい言葉を使える児童」「自分や友達のよさを見つけられる児童」「友達と仲よく活動できる児童」を目指す児童像として、全教育活動を通じて児童の人権意識を高め、一人一人を大切にすることを推進している。

本時は、人権教育上のねらいを普遍的な課題「コミュニケーション能力」におき、「おおかみ」の考え方の変化に焦点を合わせ、相手の考えや意見を尊重した話し合い活動の充実を図りたい。その際、研究主題に迫る手立てとして、ユニバーサルデザインの視点をふまえた以下の2つに取り組む。

【手立て①】ペーサートの活用

展開前段において、ペーサートを活用することで、登場人物やその場の状況などが児童にとって把握しやすいようにする。

【手立て②】ねらいの焦点化

誰にでも分かりやすい授業を展開するために、本時のねらいを「身近にいる人」ではなく「身近にいる友達」のようにねらいをより焦点化して授業を展開する。

5 人権教育上のねらい（普遍的な課題「コミュニケーション能力」）

相手の立場に立って考え、発言しようとする態度を育てる。

6 人権教育上の視点

(1) 友達と協力して意見を考えることができる。(価値・態度)

(2) 相手の意見を尊重したうえで、自分の意見を発表することができる。(技能)

7 本時のねらい

身近にいる友達に思いやりの気持ちを持ち、親切にしようとする態度を育てる。

8 学習指導過程

◎人権教育上の配慮

段階	学習活動○主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	<p>1 ありがとう日記を活用し、身近な親切について知る。</p> <p>○どんな「ありがとう」がありましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・落とし物を拾ってくれた。 ・運び物を手伝ってくれた。 ・体育の的当てで「上手」と褒めてくれた。 ・走っていたら「頑張れ」と応援してくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を思い出すことにより、親切という価値への導入を図る。
展開	<p>2 資料「はしのうえのおおかみ」を読み、話し合いの方向性をつかむ。</p> <p>○おおかみの気持ちを考えて聞いて下さい。</p> <p>3 思いやり・親切について話し合う。</p> <p>○最後の場面でおおかみは、「まえよりずっといい気持ちだった。」とありますが、どうしてですか。</p> <p>○おおかみはどうして最初から親切にすることができなかつたのですか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○登場人物 おおかみ・うさぎ・きつね・たぬき・くま</p> <p>○情 況 一本橋の上で、主人公のおおかみが動物たちを相手におもしろがって意地悪をしていた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・親切なことをした後だから。 ・いじわるをすると相手が嫌な気持ちになるから。 ・いいことをしたと思ったから。 ・親切なことができてうれしかったから。 ・いじわるなおおかみだったから。 ・いじわるが楽しかったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の置かれた状況を理解できるようにペープサートや場面絵を用いて資料を提示する。 ◎「○○さんと似ていて…」などの相手の意見や立場を踏まえた上での発表を行うよう声かけをする。(技能) ・最初と最後の「えへん、えへん」の場面を想起させ、比較させる。 ・意地悪よりも親切にしたほうがいいことをとらえる。 ◎座席を向かい合わせにし、ペアで話し合いを行い、意見を交流させ、考えを深める。(価値・態度) ・親切が一回きりではなく、連鎖していくものであることをとらえる。

	○もし、このお話に続きがあるなら、うさぎさんは誰に親切をするのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・りす ・むし ・あり ・かめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても思いやりの心を持ち、親切にしようとする心情をとらえる。
終末	<p>4 これまでの自分をふり返る。</p> <p>○これから、どんな人に親切をしていきたいですか。</p> <p>○ 本時の振り返りを道徳ノートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達 ・弟や妹 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を通して、今後どのようにしていけばいいのかを道徳ノート記入させる。 ☆進んで友達に親切な行動をしようとしている。(ノート) ・ねらいとする価値を印象づける。

9 板書計画

<p>つながる。</p> <p>しんせつはあいてに</p>	<p>場面絵</p> <p>←うさぎ←おおかみ←くま</p>	<p>場面絵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじわるなおおかみだったから。 ・いじわるがたのしいとおもっていらから。 	<p>場面絵</p> <p>まえよりいきもち</p> <p>「えへん、えへん」</p> <p>「えへん、えへん」</p>	<p>はしのうえのおおかみ</p>
-------------------------------	--------------------------------	---	--	-------------------